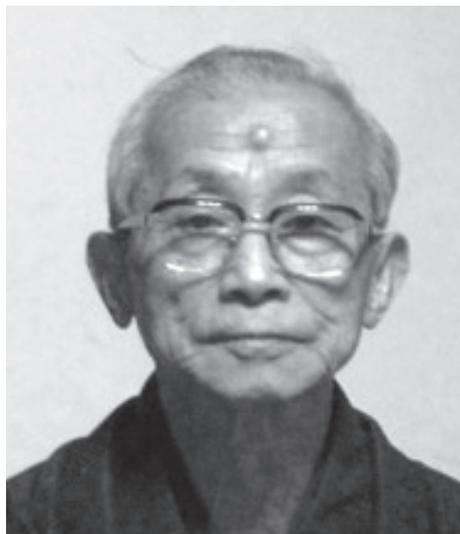


## 池田重良先生を偲ぶ

1924年12月千葉県木更津に生まれる。1947年9月東北大学理学部卒業。1947年東北大学金属材料研究所文部教官。1957年理学博士。1958～1960年フルブライト研究員としてミネソタ大学 I. M. Kolthoff 教授に師事。1959年東北大学助教授。1964年10月大阪大学理学部教授。1988年3月大阪大学を停年退官。1988年4月大阪大学名誉教授。同年同月龍谷大学理工学部教授。1995年4月立命館大学客員教授。1998～1999年同大学SRセンター長。1988年度日本分析化学会会長。1989年日本分析化学会名誉会員。1991～1997年学術会議会員。1965年日本鉄鋼協会渡辺義介記念賞。1973年日本分析化学会学会賞。1987年日本化学会学会賞。2003年瑞宝中綬章。



2022年1月22日に本会名誉会員池田重良先生が97才でご逝去されました。コロナ禍の中ご葬儀は1月25日にご家族のみにより執り行われました。ここに謹んで哀悼の意をささげると共に、先生の御業績を紹介しつつ生前の様子を偲ばせていただきます。

先生は旧制第4高等学校から東北帝国大学理学部に進まれ、小林松助先生の「分析化学は分ける学問である」との名講義に魅せられて将来の道を決められたそうです。卒業後すぐに金属材料研究所（以下金研）の助手となり、後藤秀弘教授のもと金属材料の迅速分析法の開発や微量の非金属存在物の成分分析に携わられました。続いて当時としては珍しかった Beckmann 分光光度計と拡散炭励起発光装置を組み合わせて炎光分析の研究に着手し、金属試料中のアルカリ金属やアルカリ土類金属、クロムやマンガンなどの分析法を開発され、博士論文としてまとめられました。分析に用いる通常の化学試薬に加えて「物理試薬」との概念を意識されるようになったのもこのころからと伺っており、金研にいち早く導入された蛍光 X 線分析装置で2元合金の分析法も確立されました。

1958年より Kolthoff 教授のもとでアセトニトリル中のトリウムのポーラログラフイーに取り組み、それに伴って決定された化学平衡定数が International Encyclopedia of Physical Chemistry and Chemical Physics に掲載されました。

ご帰国後金属材料中の酸素、窒素並びに水素等の気体性成分元素の定量法の実用化に従事され、アルゴン気相抽出法に続いて極端紫外発光スペクトル線を利用した分析法を開発されました。この内容は IUPAC の国際会議（モスクワ）で発表され、その折の意見交換の様子が「プラウダ」の第一面に掲載されました。

1964年大阪大学理学部化学科に分析化学講座が新設されたことに伴い、講座担当教授として先生は大阪へ移られました。これをきっかけとして実用分析を直接の目的とせず、今までの膨大な化学分析で経験された様々な現象の原因を解明し、新たな分析法の開発につなげるこ

とを研究内容の一つの柱とされました。

研究室のスタッフや学生と取り組まれたのは、Jorgensen 教授も注目したウラニルイオンの蛍光消光反応機構解析、日本で初めて装置を作るところから始めた紫外線光電子分光法による気相分子の電子状態や X 線光電子分光法を用いた研究、鉄鋼中のリンの分析を目的とした3元系ヘテロポリ酸の生成に関する溶媒抽出やラマン分光法を用いた研究、溶液系光イオン化測定装置開発と溶媒和化学種の研究（後に Siegbahn 教授が共同研究を申し出られました）、非水溶媒中の酸塩基反応の IR スペクトルと電極反応解析による研究、電極反応に伴うペルチエ熱測定、電気化学的触媒反応の解析、分光法による結果を DV-X $\alpha$  分子軌道計算を用いて解釈するなど、まさに、枚挙にいとまがありません。さらには、超音響分光法、非弾性電子トンネル分光法、窒素アフターグロー発光分析法、拡張 X 線吸収微細構造解析等々の装置を研究室内外の協力を得て自作されました。これらの研究は多方面から高く評価され、「示性状態分析の方法論および反応論的研究」として日本化学会学会賞を受賞されました。阪大を退官され龍谷大学、続いて立命館大学に移られた後も上記のテーマを継続されると共に新しい課題に取り組まれ、ご高齢になられても学会で自ら発表されるなど、いつまでも学問への情熱が尽きない様子でした。

ご研究と同時に本会の会長や近畿支部の支部長をはじめとして様々な国際会議や委員会のお世話、国際的な雑誌の Editorial Board を務められるなど、多忙な毎日を過ごされました。学術会議会員としても自然科学研究の動向とパラダイムの転換について提言されました。

毎年正月3日には縁の方々や弟子が先生宅でご挨拶することが恒例となっておりました。ご挨拶もそこそこに、先生から新しいテーマや論文のお話があったものです。

本当に長い間先生からは私にわたり様々にご指導いただきました。心より感謝申し上げますと共に、あらためて先生のご冥福をお祈りいたします。

〔大阪教育大学名誉教授 横井邦彦〕